



TITLE:

1 時岡鶴夫関係資料 (III 資料)

AUTHOR(S):

CITATION:

1 時岡鶴夫関係資料 (III 資料). 京都大学における「学徒出陣」: 調査研究報告書 2006, 1: 141-165

ISSUE DATE:

2006-07-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/189606>

RIGHT:

Ⅲ 資 料

1 時岡鶴夫関係資料

【解題】

ここに紹介する資料は、京都帝国大学経済学部在学中に海軍に入り、特攻で戦死した時岡鶴夫（敬称略、以下同）の関係資料である。同資料は、時岡が海軍入団後に家族等に送った書簡、大学時代・軍隊時代の写真が貼られたアルバムなど九二点からなり、時岡家のご厚意によって二〇〇三年六月に大学文書館に寄贈された。ここでは、そのうち時岡の海軍入団後に神戸の実家に送られた書簡五九点を紹介する。その内訳は、①時岡から家族宛の書簡五六点、②大竹海兵団第二一四分隊長からの書簡二点（ただし、封筒のみで中身は見当たらず）、③土浦海軍航空隊予備学生教育主任村山利光からの書簡一点、となっている。

書簡の大部分は、「検閲済」との印が捺された葉書であるが、後で記しているように何通か封書も含まれている。周知のように、訓練中の基地から発送する場合は葉書によることが定められていたが、休日等に基地の外から手紙を送る際には当然そのような制限はなく、その書き方や内容に微妙に変化が見られることがある。これらの資料を読むときには注意する必要がある。

時岡は、姉三人、弟一人、妹一人の六人兄弟の四番目（長男）だった。ただ、海軍入団時には、姉三人はすでに結婚していて実家にはおらず、弟（正治）も同時期に陸軍に入営していた。したがって、実家には祖母（のぶ）、父（正忠）、母（繁子）、妹（照子）が残っており、書簡もこの四人に宛てたものが大部分となっている。

時岡の略歴は次のとおりである。

一九二二（大正一一）年 三月二三日生まれ
一九三四（昭和 九）年 四月 兵庫県立第一神戸中学校入学

一九三九（昭和一四）年 三月 同校卒業

四月 松山高高等学校文科乙類入学

一九四二（昭和一七）年 三月 同校卒業

四月 京都帝国大学経済学部入学

一九四三（昭和一八）年 十一月三〇日 京都帝国大学仮卒業

十二月一日 大竹海兵団入団

一九四四（昭和一九）年 一月二五日 土浦海軍航空隊入隊

五月二七日 出水海軍航空隊転勤

九月二二日 京都帝国大学卒業

九月三〇日 筑波海軍航空隊転勤

一〇月 三日 三沢海軍航空基地派遣

十一月 五日 霞ヶ浦海軍航空隊派遣

十二月 七日 筑波海軍航空隊復帰

十二月二五日 海軍少尉任官

一九四五（昭和二〇）年 四月二六日 富高海軍航空基地派遣

七二一海軍航空隊戦闘三〇六飛行隊所属

行隊所属

五月 三日 鹿屋海軍航空基地派遣

五月一四日 第六筑波隊員として出撃、戦死

二階級特進、海軍大尉任官

京大の学生時代の時岡については、ここに紹介する資料には関係する記載はない。在学中に所属していたアイスホッケー部と一緒に活動していた東郷満氏および近藤春昭氏からの聞き取り記録（本書第二巻「IV 聞き取り記録」所収）によれば、スポーツ万能で、大学入学までアイスホッケーの経験がなかったにもかかわらず、たちまち上達して関西一のゴールキーパーになった。また、人柄もフランクで、朗らかであり、誰とでも親しく付き合える人物だったという。

その朗らかな人柄は、残された家族宛の手紙からも察することができる。

一九四三年二月入営・入団のいわゆる「学徒出陣」組については、徴兵検査の時に陸軍志望か海軍志望か聞かれたと言われるが、実際に時岡がその時に海軍志望と述べたかどうかは定かではない。しかし、海軍に入団し、大竹海兵団における訓練の後飛行科予備学生（第一四期）に採用されたことを「本望通り」「18、本資料の番号を指す、以下同」と記しているように、当初から海軍の航空隊志望だったのだろう。

二カ月弱に及ぶ海兵団での訓練は、「IV 聞き取り記録」におけるいくつかの証言から見ても、それほど厳しいものではなかったようである。ところが、飛行科としての基礎教程の場である茨城県の土浦に移ってからはかなり様相が変わってきた。時岡と同様に土浦で訓練を受けた中島豊太郎（慶応出身）は以下のように証言している^①。

二月一日付けをもって、待望の第十四期飛行科予備学生に任命され、襟章にまだ桜のマークはつかぬが腰に短剣を吊り、形だけは士官らしくなった。しかし娑婆っ気の多い学生根性を徹底的に叩き直し、速成ながら初級指揮官たらしめるべく猛烈過酷な士官教育が始まった。そしてどうやら我々の顔付きも連日の修正（殴られること）で、引き締まってきた頃であるうか、二月末の深夜、学生舎で時ならぬ非常呼集のブザーが鳴り響いた。「何事ならん」と練兵場に総員集合した我々は、足元の凍てつく大地から伝わる寒気を全身に覚えながら、壇上に立つ教育主任村山利光少佐の口元へ視線を集中した。

「戦況は生易しいものではない。貴様達は今年中に戦死するのだから、いいかッ、本日只今より覚悟をせよ。お前達に死んでもらわんと、日本はもうどうにもならん土壇場に来ている。総員戦死！いいな、わかったなッ……」

日頃の叱責とはうってかわった静かな諄々と訓す口調は、一層の重味と

説得力、それに凄味も加わり、我々は肅然として「総員戦死」の宣告をうけたのである。

右の村山利光の名は前述のように本資料中にも見ることができる「17」。時岡も間違いなく同じ場にいたであろう。土浦での厳しさは、大竹の頃と比べて手紙の文面が変化していることから察することができる。土浦では、駆け足、棒倒しといった体力強化、座学、海軍士官としての躰教育が主だったようで、この段階では飛行機には乗っていない。ただ、ここで操縦・偵察・要務の振り分けが行われており、次の中間練習機教程を鹿児島県の出水で受けていることから、時岡は操縦に進んだことが分かる。

出水に移ってから、ようやく飛行機に搭乗しての訓練が始まった。当初は赤トンボといわれる複葉の練習機に教官同乗で訓練が行われるが、やがて単独で操縦するようになり、さまざまな技術を会得していくことになる。やはり時岡にとって、空を飛ぶという体験は鮮烈なものがあつたようで、本資料のあちこちにその感激が記されている「33・34・39・40・41・43・44」。また、土浦と比較して、出水では自由が認められていて、休日には近くの温泉で骨休めしていることも記されている「35・41・44」。九月には機種別の配属が始まったように、戦闘機の搭乗員を希望している「44」。次の訓練地が元山か筑波とあるのも、そのことを物語っている。

なお、時岡の学年は、一九四三年十一月の段階で在学一年八カ月で大学仮卒業という措置が採られており、出水で訓練中の一九四四年九月に卒業とされた。実家にはその旨通知が届いていたと思われるが、それに対しては特に何も感想めいたことは述べられていない。

筑波で行われるはずだった零式戦闘機の搭乗訓練は滑走路補修工事のためできず、そのために青森県の三沢基地で訓練が行われた。一月になると三沢基地は降雪のため使用できなくなり、霞ヶ浦に移動して訓練が続けられた。しかし、大竹海兵団以来ずっと時岡と同じコースをたどって訓練を受けていた柳井

和臣（慶応出身）は、霞ヶ浦では「使用零戦機不足のため「赤トンボ」での編隊飛行訓練で操縦感の保持にお茶を濁していた」と述べている。⁽²⁾三沢や霞ヶ浦からの手紙には、訓練の様子がほとんど書かれていないのも、こういった状況によるのかもしれない。

改めて指摘するまでもないことであるが、本資料の手紙は家族への愛情があふれたものになっている。家族からの手紙を非常に楽しみにしていたことは、思うようにそれが来なかったときの催促ぶりからも容易に読み取れる。また、陸軍へ行った弟正治、銀行に勤め始めた妹照子への気遣いぶりも目を引く。家族との面会は、土浦時代の一九四四年五月に一度あった「30」ほか、出水から筑波へ向かう途中に実家に立ち寄ったようである「47」。また、少尉任官直後に休暇があり、一九四五年の正月に実家に帰省している。その折、朝鮮の部隊へ向かう途中の弟正治と偶然実家で顔を合わせるといふ幸運があった「54」、および時岡家からの教示による「」。以上三回を数えた訓練中の面会のほか、出撃直前に父正忠、母繁子とそれぞれ一度ずつ会うことができている（後述）。

この訓練期間中に、戦局は悪化の一途を辿っていた。一九四四年七月にはサイパン島が陥落し、日本本土空襲が現実のものとなり、続く一〇月のレイテ沖海戦においては神風特別攻撃隊が組織され、零戦に爆弾を積んで体当たり攻撃を行ういわゆる特攻が開始された。そして、一九四五年二月二〇日には、「機密筑空命令第七号」として筑波航空隊においても「四月末概成ヲ目途トシ速ニ特攻隊ヲ編制スル」ことを目的として特攻訓練の実施が命令されるに至り、時岡もその一員となった「58」。最終的には、筑波航空隊からは第一筑波隊から第一三筑波隊までの合計一三隊が編制され、総員は八四名に達した。内訳は、第一三期飛行科予備学生二九名、第一四期飛行科予備学生四八名、予科練出身下士官五名、海軍兵学校七三期二名となっており、一三期も合わせていわゆる学徒兵あるいは学徒出身者が大部分を占める部隊となった。特攻隊の編制が、志願によるものであったのか、指名によるものであったのか、その形式的側面

にこだわることに意味があるかどうかはさておき、部隊によって差異があったようである。特攻隊員の遺稿などを分析している森岡清美は、筑波航空隊に關しては隊員に編制されながら希望を申し出て免除された者が二名いることから、希望調査が行われなかった代わりに、希望が最終編制の際に考慮されたのではないかと推測している。⁽⁴⁾

時岡が家族に特攻隊編制について告げるのは四月二三日付の手紙「58」においてだが、その前の三月六日付「56」や三月一六日付の手紙「57」で、すでにそれとなく知らせている。特に後者は、数多くの手紙の中で唯一、海軍入団前の家庭でのことを振り返っているほか、自ら「遺書の様な書き方」と記しており、受け取った家族の側もある程度察しがついたであろう。

一三隊に分かれた筑波隊は、四月上旬から南九州に向かい、海軍の出撃基地であった鹿児島県の鹿屋から出撃していく。時岡が所属していた第八筑波隊は、第九から第一三筑波隊とともに少し遅れて、四月二六日に筑波を出発し、まず宮崎県の富高航空基地に向かった。その離陸直前に神戸から父正忠が筑波に来て、辛い面会することができた「59」。二三日付けの手紙を読み、すぐに筑波に向かったものであろう。⁽⁵⁾

その後、時岡は五月三日に鹿屋航空基地に進出した。そして、鹿屋で出撃待機中の六日に神戸から訪ねてきた母繁子と奇跡的に会うことができている。時岡と同様筑波隊に編制されていた吉田信（東大出身）の日記の五月六日の項には「本日第九筑波隊時岡少尉の母上遙々と訪ね来られ、時岡と感激の対面をなさる。思わず台北の母上父上を思い出して懐かしき湧き来る。母なればこそ、九州の基地とのみ聞きて、既に交通不便空襲下のこの辺を六箇所も尋ね歩かれ、漸く富高基地にて彼の居所を教えられた為、来られたる由なり。出撃遅れて未だ生きたる中逢えたる実に幸せなり」と一喜べり⁽⁶⁾と記されている。繁子の日記によると、四月三〇日に神戸を発ち、五月二日に鹿児島に着き、鹿屋、笠原、国分などを訪ね歩き、鹿児島水交社で出会った蔵田大尉（神戸一中の同期

生)に富高と教えられ、富高から鹿屋にたどりついている。⁽⁷⁾この時の、芝生に座って語り合う母子の写真が新聞に掲載されている。⁽⁸⁾また、やはり繁子の日記によると、六日の午後には隊員の運動会が催されている。「午後、隊員運動会。室より見る。あどけない遊び、手を後へ回して煙草に火をつける競争、目かくしてはるかにある桶の底叩き競争、椅子取り競争、スプーンレース、等々。何れも賞品つき。終りて、それぞれ賞品かかえて笑い興じて、室に戻り来る様、さながら小学児童の如く明日にも命を捨てる君かなと思われる位。誠に超越せし心境なり」と記されている。繁子は、鹿屋に二泊して、八日朝に神戸に向けて出発している。

五月一日、菊水六号作戦が発動され、時岡らの所属する隊にも出撃が命じられた。しかし、時岡は飛行機の整備状態不良のため出撃が延期されている[59]。なお、この時同じ筑波隊に属していた京大法学部出身の中村邦春が出撃して、戦死している。時岡は、翌一二日にも出撃を予定されていたが中止となり、一四日に第一〇・第一一筑波隊などと共に新たに第六筑波隊に編成されて早朝に鹿屋を出撃、戦死した。二三歳であった。

注

- (1) 中島豊太郎「幾島達雄君を偲ぶ」土居良三編『学徒特攻その生と死』国書刊行会、二〇〇四年、一二五頁。
- (2) 柳井和臣「筑波隊の記録」前掲『学徒特攻その生と死』二四一頁。
- (3) 森岡清美「若き特攻隊員と太平洋戦争」吉川弘文館、一九九五年、二二八頁。前掲『学徒特攻その生と死』二八四頁にも記されている。
- (4) 前掲『若き特攻隊員と太平洋戦争』二三三頁。
- (5) 木名瀬信也「妄想」零戦搭乗員会『零戦』第二号、一九八四年。木名瀬によると、父正忠の来隊は正に離陸直前であり、輸送機が暖機運転中だったため面会できたという。なお、木名瀬は三期飛行科予備学生であり、第九筑波隊の隊長としてともに出撃するはずだったが、富高へ向かう直前、特命をもって特攻被命

一四期士官の学生教程卒業関係事務を処理することになり、筑波に残ることになった。

- (6) 吉田信「遺稿・日記と私信」前掲『学徒特攻その生と死』二三三頁。
- (7) この時、繁子は時岡の神戸一中の同期生で第一二筑波隊に編制されていた佐藤国三郎(慶応出身)の母とともに鹿児島を訪ね歩いている。佐藤はこの時まだ富高にいて、五日に母と対面することができた。佐藤国三郎「激動の昭和私史・鹿屋」前掲『学徒特攻その生と死』三三六頁。
- (8) 『読売新聞』一九四五年五月一七日付。

(西山 伸)

1 宛先

時岡正忠

差出人

大竹海兵団第二四分隊長

日付

一九四三年二月八日〔消印による〕

形態

封書〔中身見当たらず〕

2 宛先

時岡正忠

差出人

大竹行臨時列車内 時岡鶴夫

日付

一九四三年二月二日〔消印による〕

形態

封書

車中より一筆啓上仕候。

感激の中に遂に神戸駅を発つて既に加古川に来ました。

神戸駅での雑踏の中で何が何やら分らぬ中にお別れ致しましたが元気満々一路大竹へ心は走ります。

本日迄本当に色々有難うございました。

食べたいものは皆食べたし、もう浮世に心残りはありません。お父さんもお母さんもお疲れの事と思ひますが呉々も御自愛下さい。健康第一々々々々。

お婆さんもお疲れの事と思ひます。風邪を引かれませぬ様。

野瀬の伯父様始め親類の皆様、福島さん御一家等々、元氣で行つた事をお伝え下さい。車中はゆつくりしてゐてとても朗かです。

一中の連中だけでも本田、西山、辻、安藤、佐藤、松井、向井、加藤その他京大、同大、関学等々知つてゐる奴許りでとても愉快です。

断然くはりきつてゐます。

お父さんも余り御心配下さらずどうか家中愉快にして今度帰つた時明るい家である事を切望して止みません。

道ちゃん敏ちゃんにも色々世話になりました。衷心感謝してゐる事をお伝え下さい。

兎に角スゲー元氣也。車中故乱筆不悪。さよなら。

時岡正忠様

御一同様

3 宛 先 時岡正忠

差出人 広島県佐伯郡大竹海兵団第二四分隊 時岡鶴夫

日 付 一九四三年二月一日〔消印による〕

形 態 葉書

(1) 拝啓

入団前は色々有難うございました。御蔭様にて元氣にやつて居ります。暫くの間便りを出せませんでしたので遅れましたが、印刷の札状は部隊名を入れたものはこちらでも家からでも出せませんから隊名を入れず神戸の住所でも出して下さい。こちらからも暇を見つけて親類へも出しておきます。神戸駅でのお見送りは大変だつたと思ひます。会社の方にもよろしく。車中では友人も多く寒さにふるへながらも元氣に大竹着、直ちに入団しました。入つて直ぐ身体検査があり、A、B、Cと分けた中でB合格飛適でしたので本望を達する事が出来さうで喜んでゐます。入団式も終り天下晴れて二等水兵です。

4 宛 先 時岡正忠

差出人 広島県佐伯郡大竹海兵団第二四分隊第九教班 時岡鶴夫

日 付 一九四三年二月一日〔消印による〕

形 態 葉書

(2)

今日から試験がありました。まあ大体出来ましたが主計は少し疑問です。正治の方から通知がありますか。正治も二等兵ですね。照子は挺進隊^(身)に行つてますか。一家総動員ですがお父さんお母さんお祖母さんも向寒の砌呉々も御自愛下さい。私も大いに元氣にやつて行く積りです。早起早寝でお祖母さんにも喜んで戴けますね。煙草を是非、及びスリツパ及び葉書、手鏡を直ぐ送つて下さい。

匆々

5 宛 先 時岡正忠

差出人 広島県佐伯郡大竹町

大竹海兵団第二四分隊第九教班 時岡鶴夫

日 付 一九四三年二月二二日〔消印による〕

形 態 葉書

第一信着いた事と思ひます。その後も私は断然健康で又断然大食ひになりました。矢張り生活が規律正しいからです。一信に書きました札状の事はそちらから印刷の札状を出さない様願ひます。こちらから親類へは大分出しましたし、残りもこれから出しますから御安心下さい。煙草は是非共至急願ひします。欠乏してゐますから。適性検査には合格出来ると思ひます。主計の方も試験を受けました。又便りをします故、返事願ひします。日記を一つ、スリッパ（草履でも可）及金属製のマツチ箱があれば一緒にお願ひします。

6 宛 先 時岡正忠

差出人 広島県大竹海兵団第二四分隊第九教班 時岡鶴夫

日 付 一九四三年二月二七日〔消印による〕

形 態 葉書

御返事が未だ着きませんが御変りありませんか。一度様子を知らせて下さい。尚洋服、オーバー、マフラー、帽子を小包で既に送つて一週間程になりますが、到着しましたかどうかもお知らせ下さい。それから分隊長から封書を出されましたから御存知と思ひますが、面会は許されませんから。尚煙草は送つて貰つ

ても良い様ですからその他のものと一緒に成可く早く願ひします。先は右御知せ旁々御願迄。

7 宛 先 時岡照子

差出人 広島県大竹町大竹海兵団第二四分隊第九教班 時岡鶴夫

日 付 一九四三年二月二七日〔消印による〕

形 態 葉書

照子元氣か。勤勞挺進隊（身）でもう通つてゐるんだらうね。朝早くから大変だらう。正治から便りがあつたかどうか知らせて呉れ。この手紙が着いた頃はお前の誕生日も終つてゐるかも知れないが、兎に角おめでたう。もうすぐ正月で愈々廿才になるね。銃後の女性として大いに活躍し給へ。飛行機をどんどん作つてくれたら、それに俺がのつて敵をやつつけるよ。断然愉快。さて家から何の便りもないので心配。お母さんが病氣されたのではないか。暇あり次第直ぐ知らせ頼む。

おばあさんよろしく。

勿々

8 宛 先 時岡正忠

差出人 広島県大竹町大竹海兵団第二四分隊第九教班 時岡鶴夫

日 付 一九四三年二月二九日〔消印による〕

形 態 葉書

拝復

昨日御手紙到着拝見致しました。皆様御元気との事で安心致しました。大分寒くなつて来まして愈々今年も暮れますが、今度の正月は家も少し寂しいですね。小包（洋服、オーバ）着いたでせうか。着き次第知らせて下さい。又お願の品々送つて下さいましたさうで有難うございます。では皆様が良いいお年をお取りになる様お祈りしてゐます。私は元気ですから御安心下さい。

9 宛 先 時岡照子

差出人 広島県大竹町大竹海兵団第二四分隊第九教班 時岡鶴夫

日 付 一九四三年二月三〇日〔消印による〕

形 態 葉書

お手紙有難う。軍隊に居ると家からの便りはとても嬉しいですよ。今朝葉書を出した後へ手紙が来たので少し喰違ひましたが、お父さんお母さんお祖母さん皆お元気との事で安心しました。正治から便りがないので少々心配して居りました所、今日の手紙で本当に喜んでゐます。班長さんが神戸の方でよかつたですね。入団前に写した写真大丸へもつて行つた分が出来てましたら送つて下さい。正治に負けない様、私も大いに頑張ります。照子も挺進隊^(身)が延びたんだから、家の方をよろしくお母さんを助けてしつかりやつて下さい。煙草を送つて下さいましてありがたう。今つきました。有難う。スリツパがとても暖いです。洋服がそちらにいたら大急ぎで知らせして下さい。こちらで調べておられますから。良い年をとつて下さい。正治の所、班もこの次にしらせて下さい。さよなら。

10 宛 先 時岡のぶ

差出人 広島県佐伯郡大竹町

日 付 一九四三年二月三〇日〔消印による〕

形 態 葉書

御祖母様お目出度ございます。

照子からの手紙で大変お元気との事で喜んで居ります。六人の孫の中で照子一人になつたので、おばあさんもお寂しい事と思ひますが、今年も御健康で過される様心から御祈り致します。今西さんへは挨拶状出しておきました。おばあさんが縫つて下さつたお守袋何時も胸に入れてゐます。何か良い歌が出きましたら、又一〇で天にでもなれたらお知らせ下さい。では又お便りします。

11 宛 先 時岡正忠

差出人 大竹海兵団第二四分隊長

日 付 一九四三年二月

形 態 封書〔中身見当たらず〕

12 宛 先 時岡正忠、家族一同

差出人 広島県佐伯郡大竹町

大竹海兵団第二四分隊第九教班 時岡鶴夫

日 付 一九四四年一月六日〔消印による〕

形 態 葉書

拝復

皆様必勝の年を迎へられ益々御健勝との事、心から御喜び申し上げます。二日に

父上様からの葉書二通到着致しました。私も軍人としての初の正月を迎へ感慨新なるものがあり、更に決意を固めて居ります。正治も^(幹)官候の試験があるさうですが無事パスする様祈つてます。私の方は結果その他について発表もありませんし、又何時発表されるかも分りません。分り次第お知らせ出来ると思ひます。尚刀の件有難うございます。前田氏よりもお知らせあり札状既に発しました。小包は照子宛に到着の旨知らせておきました。先は右御返事迄。

13 宛 先 時岡正忠

差出人 広島県大竹町大竹海兵団第二四分隊第九教班 時岡鶴夫

日付 一九四四年一月七日〔消印による〕

形態 葉書

謹みて必勝の新年を寿ぎ奉る。

生田神社で戴かれた葉書でのお便り嬉しく拝見致しました。私も軍人としての初の元旦に軍艦旗を仰ぎつつ更に決意を固めて居ります。幸ひ風邪も引かず至極健康ですから御安心下さい。正治からも便りがあり元気な事で喜んでゐます。昨日初雪があり今朝は後背の山々は真白に雪化粧をしてゐましたが、今はさんさんと日が照つてゐます。お父さんから尋ねて来られた分隊長は今日替られましたが矢張りこの三十一分隊長に居られる清水為行大尉ですから。では亦出る時の写真どうなりましたか。

14 宛 先 時岡正治

差出人 広島県佐伯郡大竹町

大竹海兵団第二四分隊第九教班 時岡鶴夫

日付 一九四四年一月一〇日〔消印による〕

形態 葉書

決戦の初春を迎へて益々元氣溍溍軍務に精励してゐる事と思ふ。数日前葉書が着いた。官候^(幹)の試験も既に終つた事だらう。結果はどうだ。無事^(幹)甲官に通る様祈つて止まない。特別操縦見習士官の方も一次検査は残つたさうでおめでたう。是非共一緒に大空に飛立たう。篠山は寒くて雪も降積もつてゐるんだらうね。寒さに負けず大にお互に頑張らう。俺も海軍生活に大分慣れ水兵服もぴつたりしてきた。今度面会が許されてお前の事もきけるので楽しみにしてゐる。これから先遠く離れてもお互に便りを出し合つて励まし合はう。では奮闘を祈る。

15 宛 先 時岡正忠

差出人 広島県大竹町大竹海兵団第二四分隊九教 時岡鶴夫

日付 一九四四年一月一二日〔消印による〕

形態 葉書

本日写真が着きました。皆とても良く写つてゐて、とても良い記念になります。何度も出して見ても楽しんでゐます。照子からの手紙も来ました。又浅山の姉さんからも写真がきて今日は良い日だなどと思つてゐます。この便りが着く頃は面会も終つた頃でせう。兎に角ファイトを猛烈だして訓練に頑張つてゐます。尚黒笹氏から便りを戴き、颯爽たる少尉姿の黒笹氏を想像してゐます。では又お便りします。お祖母様にもよろしく。時間がなく表記を誤り失礼しました。^(注)

〔注〕葉書表面の宛名表記の「時岡」の下に「鶴」と書きかけて消した跡あり。

16 宛 先 時岡正忠

差出人 広島県大竹町大竹海兵団第二四分隊第九教班 時岡鶴夫

日付 一九四四年一月一四日〔消印による〕

形態 葉書

其后皆様御変りございませんか。今日は面会日でしたので昼の面会時間に來られる事と待つて居ましたが、來られませんでしたので少々気抜けもしましたが何とともあれ遠い所なので無理もない事と思つてゐます。面会通知状でお願いしたものは送付して下されば有難いのですが。家も忙しい事と思ひますし。決して無理して廿二日に来て戴かなくても結構ですが、どちらかお知らせ下さい。私は元氣ですから御安心下さいませ。ではお返事お待ち致して居ります。

17 宛 先 時岡正忠

差出人 土浦海軍航空隊予備学生教育主任 村山利光

日付 一九四四年二月一〇日〔消印による〕

形態 葉書

謹呈 戦況極メテ苛烈ナル現局下決戦必勝ノ新年ヲ迎ヘ一億同胞総員戦死ノ覚悟更ニ新タナルノ時貴堂御子息ニハ皇国興廢ノ重責ヲ担ヒ選バレテ我が海軍航空界ニ身ヲ投ゼラレタルハ邦家ノ為真ニ慶賀至極ニ奉存候

斯クテ当分ノ期間航空中堅幹部トシテノ教育訓練ヲ当隊ニ於テ実施スルコトト相成候処之ガ規律統制アル訓育実施ノ為ニハ御家庭ニ於カレテモ左記御含ミノ上御協力方御願申上候

記

一、三月上旬迄外出不許可

二、三月上旬迄面会不許可

三、三月中旬以降ニ於テ面会日ヲ特定セラレタル場合ト雖モ部外ヨリノ飲食物ヲ隊内ニ持込ムコト嚴禁

四、通信ハ發受共葉書ニ限定シ内容ハ簡明ナルヲ要ス

昭和一九四年二月 日

土浦海軍航空隊予備学生教育主任 村山利光

18 宛 先 時岡正忠

差出人 茨城県土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日付 一九四四年二月二五日〔昭19/2/25着〕との異筆書込あり

形態 葉書

永ラク御無沙汰致シマシタガ皆様其后御變リアリマセンカ。大竹ニテハ入室中デ驚カレタ事ト思ヒマスガ、幸ヒ皆ト一緒ニ土浦ヘ來ル事ガ出来マシタ。本望通り飛行専修予備学生ヲ拝命シ、日々元氣ニヤツテ居リマスカラ御安心下さい。正治ハ朝鮮デドウシテ居ルノデスカ。京都ヘモコチラノ所知ラセテ下さい。面会ハ三月下旬デス（一四二字）。

尚返信ハ一切端書、小包嚴禁デスカラ。

勿々

19 宛 先 時岡正忠

差出人 茨城県土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日付 一九四四年三月九日〔消印による〕

形態 葉書

前略

今回横鎮命令ニ依リ三月一日以後当分ノ間面会ハ禁止サレル事ニナリマシタノ
デ若シ当地ニ来ラレテモ面会ハ絶対ニ許サレマセン。追ツテ通知ノアル迄才出
デニナラヌ様御願ヒシマス。
尚此旨ヲ親戚知人ニモ御伝ヘ下サイ。
右要件ノミ

敬具

20 宛 先 時岡正忠

差出人 茨城県土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日付 一九四四年三月二十四日〔消印による〕

形態 葉書

拝復

色々と良イ事許リ書イテアル御便トテモ嬉シク拝見シマシタ。私ハ暖サト共ニ
益々元気潑潑一生懸命課業ニ励ンデ居マス。通信数ガ決ツテマスノデ御無沙汰
シマスガ、健康モ大丈夫デスカラ御心配ハ要リマセン。ソノ旨親戚ニモ知ラセ
テ下サイ。軍刀、スリツバ、糸ヲ送ツテ下サイ。魚津、正治ニモ便リヲシマシ
タ。デハ亦家ノ様子ヲ知ラセテ下サイ。

匆々

(横鎮命令ニヨリ面会禁止、又通信ハ葉書、右ノ品以外小包厳禁)

21 宛 先 時岡正忠

差出人 茨城県土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日付 一九四四年三月二十七日〔消印による〕

形態 葉書

御祖母様、父上、照子カラノ御便リ嬉シク拝見シマシタ。賀川サンノ御不幸ニ
ハ驚キマシタ。先日コチラデモ会ツテ聞キマシタガ夢ノ様ダト云ツテマシタ。
私ハ其后益々元気、適性検査モ終リ、断然張切ツテ居マス。
照子ハ銀行ノ方ハ如何デスカ、少シ辛イ事デセウネ。
才祖母様モ健康ニ御注意下サイ。デハ亦御便ヲ下サイ。軍刀ハ御願ヒシマス。
(命ニ依リ通信ハ葉書、尚小包ハ厳禁)

22 宛 先 時岡正忠

差出人 茨城県土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日付 不明

形態 葉書

前略

今回武官履歴調査書調製ノ為家族全員ノ生年月日及年齢ガ必要デアリマスカラ
折返し直チニ御知ラセ下サイ。
先ハ右御願迄。

敬具

23 宛 先 時岡正忠

差出人 土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日付 一九四四年四月三日〔4/3着との異筆書込あり〕

形態 葉書

謹啓

春暖ノ候其后皆様御変リゴザイマセンカ。土空へ来テ既ニ二月半ヲ経、大分海軍精神モ分ツテキマシタ。一日モ早ク飛練教程へ行ツテ練習機ヲ操縦シテ見度クテ耐リマセン。軍刀ハ未ダ着キマセン。健康ハ大丈夫デスカラ心配ハ要リマセン。時々照子ニモ便ヲサセテ下サイ。私物ノ靴ソノ内ニ送リマス。賀川氏ニヨロシク

敬具

(命ニ依リ通信ハ葉書、又小包ハ嚴禁、横鎮命令ニ依リ面会禁止)

24 宛 先 時岡正忠

差出人 茨城県土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日 付 一九四四年四月一〇日〔消印による〕

形態 葉書

御葉書及小包有難ウゴザイマシタ。

軍刀ハ未ダデスガソノ内ニ着ク事デセウ。

四月ニ入り氣候モ暖ク元氣潑濺タルモノデス。棒倒デモ通信デモ決シテ人後ニハ落チマセンカラ御安心下サイ。先日藤猪氏ヨリ御便ヲ戴キマシタ。大石ノクラブニ居ラレル石坂氏ノ三男哲郎君ト同班デ一緒ニ張切ツテ居マス。祖母様モ御元氣デスカ。デハ亦御便シマス。(命ニ依リ通信ハ葉書、又小包嚴禁、横鎮命令ニ依リ面会禁止)

25 宛 先 時岡正忠

差出人 土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日 付 一九四四年四月一〇日〔消印による〕

形態 葉書

今回将校行李購入ノ為五拾円必要デスカラ必ズ小為替ニテ御送り下サイ。写真ハ写シマシタガ未ダ出来マセンカラ、出来タラ送リマス。照子ハ元氣ニ勤メテルサウデスガ銀行ノ仕事モ仲々辛イデセウ。

正治ニモ便ヲシタノニ返信ガアリマセンノデ心配シテ居マス。陸軍モ大イニヤツテルカラ忙シイノカモ知レマセン。御便待ツテ居マス。

(命ニ依リ通信ハ端書、又小包嚴禁、横鎮命令ニヨリ面会禁止)

26 宛 先 時岡正忠

差出人 土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日 付 一九四四年五月四日〔消印による〕

形態 葉書

拝啓

今回面会ガ許可サレル事ニナリマシタ。日ハ五月ノ十四日若クハ二十一日、又父母兄弟姉妹ノ中三人迄デアリマス。来ラレルカドウカ、又両日ノドチラニサレルカ又父上モ母上モオ忙シイ様デシタラ兄サンノ御都合ガドウカモオ知ラセ下サイ。面会許可証ヲ送付致シマスカラ乗車券ハ心配ナイト思ヒマス。又ファイバー製デ結構デスカラトランク(中型)一ツヲ出来レバ持ツテ来テ下サイ。コチラノポストンバツグト交換シタク思ツテ居リマス。

勿々

27 宛先 時岡正忠

差出人 茨城県土浦海軍航空隊学生隊第二分隊三班 時岡鶴夫

日付 一九四四年五月七日〔消印による〕

形態 封書

拝啓

暫ク御無沙汰致シマシタガ氣候不順ノ折柄皆様御元氣デセウカ。

厳シカツタ冬モ何時ノ間ニカ過ぎ去リ、土浦ニモ春色ガ満チ満チテ居リマス。
 関東特有ノ空ツ風モ漸ク鋭峰ヲ納メ暖イ風ニ桜ノ花ガ散ツテ居マス。将ニ我世
 ノ春ヲ謳歌スルト云フ所デス。寒サノ為イジケテ居タフアイトモ今ハモリモリ
 ト出テ来テソノヤリ場ニ困ル程デス。

扨先日通知致シマシタ面会ノ件デスガ十四日又ハ二十一日ノ両日中何レカ一日
 デスガ出来レバ十四日ニ御願ヒシ度ク思ツテ居リマス。デモ例ニ依ツテ交通機
 関ガ輻輳シテ居ル事デスシ、別ニ無理ヲシテ戴カナクテモ構ヒマセン。デスカ
 ラ若シ来ル事ガ出来ニナレマセンデシタラ前ニモ才願ヒシテ置キマシタ様前
 田ノ兄サンノ御都合ヲ聞イテ見テ下サイ。

面会許可証ヲ同封シテ置キマスカラ御持参下サイ。此ガアレバ乗車券モ買ヘル
 筈デス。

尚時刻ノ事ハ判然トシマセンノデ八時カラ九時頃迄隊門ノ少シ土浦市寄りニ小
 川ガアリマスカラ其処デ待ツテ戴ケレバ幸ヒデス(図参照)。駄目ダツタラ桜
 橋ト云フノガアリマスカラ土地ノ人ニ聞イテソノタモトデオ待チ下サイ。

祖母様ハソノ后如何デセウカ。氣候ノ変リ目デスカラ御自愛下サル様オ伝ヘ下
 サイ。

前田ノ姉サン、芳子チャン、直子チャン、浅山ノ姉サン、邦夫チャンモ元氣デ
 セウカ。暫ク便リガアリマセンノデ一度手紙ヲ下サル様伝ヘテ下サイ。モツト
 モ私カラ葉書ヲ出サナイノデ返事ガナイノハ当然デスガ。

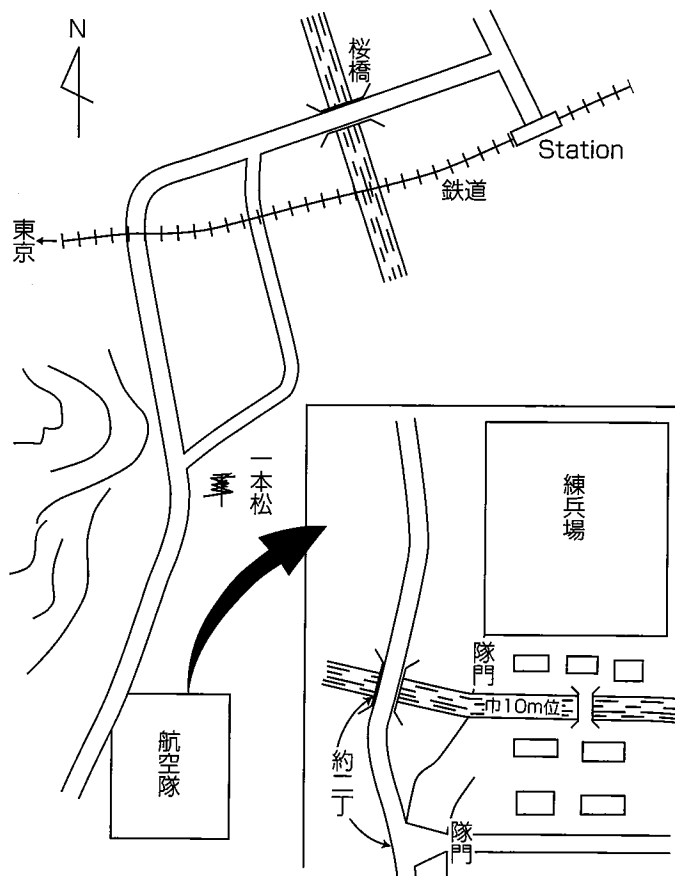
デハ樂シミ^(三)テシテ居リマス。折返し返事ヲ下サル様御願ヒ致シマス。靴ハ届イ
 タデセウカ。

照子ノ奮斗ヲ祈リマス。乱筆御許シ下サイ。

草々

追伸 ファイルムガアルノデシタラ一緒ニ写シ度イト思ツテ居リマスカラ持ツテ
 来テ下サレバ……

面会人ハ父母兄弟中三名以内。



28 宛先 不明

差出人 時岡鶴夫

日付 一九四四年五月上旬

〔昭和一九年五月上旬〕との異筆書込あり

形態 封書「封筒見当たらず」

先日お知らせしました様に十四日又は二十一日に面会の機会がありますから若しお出でになれる様でしたら来て下さい。

前田の兄さんが東京へ良くお出でになる様ですから若し都合がよろしい様でしたら願ひします。

又面会は隊外である様ですから三好さんのお宅でも待つて戴けたらよいと思ひます。

五月は九日にも外出がある様です。同封の手紙は友達に頼まりましたので可成早く持つて行つてあげて下さい。

私は元氣一杯大いに張切つてゐます。では亦面会の時に。

敬具

追伸 風呂敷を一枚もつて来て下さい。

この地を去る日も近いようです。

29 宛 先 時岡正忠

差出人 土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日 付 一九四四年五月一日〔消印による〕

形態 葉書、速達

前略

今回五月十四日又ハ二十一日ノ面会ニ付左ノ事項ガ達セラレマシタカラ御知ラセ致シマス。

①面会許可証ヲ必ズ持参ノ事。

②一応隊門ニ来ル事。

③面会人ハ三人以内厳守ノ事、出来ルダケ小人数ヲ可トス。

④乗車券ハ往復券ヲ購入ノ事。

⑤公務ヲ休ンデ迄来ラレル必要ナシ、中練ニテ再ビ機会アル模様。

⑥時刻ハ九時頃ノ筈。

以上

30 宛 先 時岡正忠

差出人 土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日 付 一九四四年五月二日〔内容より推定〕

形態 葉書

昨日ハ遠イ処ヲ来テ下サイマシテ有難ウゴザイマシタ。久振りニ父上母上ノ御元氣ナ顔ヲ見マシテ勇氣百倍ノ思ヒガ致シテ居リマス。身体モ肥リマシタカラ御心配ハモウ要リマセン。照子モ元氣ニヤツテルサウデスガ無理セヌ様才伝ヘ下サイ。尚写真ヲ一枚照子ニデモ小林サンヘ届ケサシテ下サイ。御自愛ヲオ祈リ致シテ居リマス。

葉書デ通信シテ下サイ、小包ハ嚴禁、面会禁止

31 宛 先 時岡正忠

差出人 鹿児島出水海軍航空隊学生舎第七分隊 時岡鶴夫

日 付 一九四四年五月二九日〔消印による〕

形態 葉書

拝啓

次第二暑クナリ夏ラシクナツテ参リマシタガ、ソノ后皆様才変リゴザイマセンカ。先日面会ノ節ハ遠イ処ヲアリガタウゴザイマシタ。今度出水航空隊ニ転勤ニナリ無事入隊、新シイ希望ニ燃エツツ日ヲ過シテ居リマス。愈々目的ノ飛行機ニ乗レル日ガ来テ、血湧キ肉躍ルト云フ処デス。

大イニ慎重ニ訓練ニ励ム決心デ居リマス。賀川、佐藤トモ一緒デス。デハ又オ便リシマス。写真ハトドキマシタデセウカ。煙草オ送り下サイ。

32 宛 先 時岡正忠

差出人 土浦海軍航空隊学生隊第二分隊第三班 時岡鶴夫

日付 一九四四年五月一六日頃

〔19/5月/16日頃着〕との異筆書込あり

形態 葉書

拝啓

二十一日ニ来ラレル由ノ葉書拝見致シマシタ。許可証ヲ必ズ御持参下サイ。時刻ハ八時半頃隊門。私ハ元氣デスカラ御安心下サイ。大分暑クナツテ来マシタカラ御出ニナル時御無理ナサラヌ様。

デハ二十一日ニ。御祖母様ニヨロシク。

命ニヨリ通信ハ葉書、又小包厳禁

勿々

33 宛 先 時岡正忠

差出人 鹿児島県出水海軍航空隊学生舎第七分隊 時岡鶴夫

日付 一九四四年六月五日〔消印による〕
形態 葉書

拝啓

当地よりの第一信は着きましたでせうか。前の面会では一時間しかなく前から考へてゐた事も充分お話も出来ませんでした。父上母上の御元氣なお顔を見て大変嬉しく思ひました。私は元氣で断然張切つて居ります。そして今更乍ら飛行機を志願した事を喜んでゐます。運動で鍛えた(?)感を働かして上手な搭乗員になるべく努力を続ける覚悟で居ります。それから飛行機は絶対安全です。私に關しては少しの心配も御無用です。先日作業中腕にはめてゐた時計を何処かに紛失してしまいました。作業には時計は絶対必要ですので何とか苦面して戴けません。懐中時計の方が良いのですが。お願いします。尚正治の住処も頼みます。

34 宛 先 時岡正忠

差出人 鹿児島県出水航空学生舎七分隊 時岡鶴夫

日付 一九四四年六月一四日〔消印による〕

形態 葉書

皆様御変りない事と思ひます。

私は毎日赤トンボに乗つて下界を眺めつつ快哉を叫んで居ります。今日迄地球がこの様に美しいものとは知りませんでした。子供時代の箱庭をつくりでこの美しい空で死んでも男子の本望だと思つて居ります。毎晩ねる時、翌日が楽しみである事が人世の最大の幸福と云はれますが、今つくづくこの言葉を味へる様になりました。操縦の方では人には負けません。早く単独になつてみたい

ものです。正治も飛行機に乗つてゐたら痛快だったのにと残念に思つてゐます。賀川、佐藤、三宅（五丁目の）皆夫々張切つてゐます。

続く

35 宛 先 時岡正忠

差出人 出水海軍航空隊学生舎七分隊 時岡鶴夫

日 付 一九四四年六月一四日〔消印による〕

形 態 葉書

毎日飛行場で走り廻つてゐますので、飛行帽の線がはつきりと額に着く程日焼しました。益々黒くなる事でせう。大学時代氷球をやつてゐた事はスピード感と手足の均衡の為大いに良かった喜んでゐます。飛行作業以外は学生の自治が許されて居り気持ちの良い一日一日を過して居りますし、外出も汽車で湯の子温泉や阿久根温泉に行つてゐます。それから小包が許されましたので煙草とスリッパそれに夏の袖なしのシャツがあつたら送つて下さい。正治の所も願ひます。では又。学生時代のバスケットの靴一緒に送つて下さい。さよなら。

36 宛 先 時岡照子

差出人 鹿児島県出水海軍航空隊学生舎七分隊 時岡鶴夫

日 付 一九四四年六月二六日〔消印による〕

形 態 葉書

暫く御無沙汰したが元気ですか。銀行も大分忙しい様子ですが、身をこはさぬ様しつかりやつて下さい。前の面会の時来なかつたね。でも腕を振つての菓子

は有難く頂戴しました。こちらは南国でとても風景は美しく外出の時は近くの温泉に行つてのんびりして、張切つて飛行機に乗つてゐます。前便で願ひしたものの（スリッパ等）や正治の住所を早く願ひます。お父様お母様から便が一回あつただけですので心配しています。一度詳しく知らせて下さい。お祖母様はその后如何ですか。

ついでに学生時代のアルバムお願いします（後程送り返しますから）

草々

37 宛 先 不明

差出人 時岡鶴夫

日 付 一九四四年六月下旬

形 態 原稿用紙

〔昭和十九年六月下旬〕との異筆書込あり

拝啓

時計と煙草を有難うございました。時計はすばらしい物なのでとても喜んで居ります。いづれお祖母様にも礼状差上げますがお父様からも宜敷お伝へ下さい。煙草もこちらで不足する唯一のものでとても有難く受取りました。時々煙草だけはお手数かけて済みませんが送つて下さい。煙草のほしい時は最後に「不二」と書きますから。

外出は毎日曜朝から六時迄あつたのですが、今度十二時から六時迄になりました。隊外での面会は黙認されて居りますから当地卒業迄に（九月末）一度来られたら来て下さい。手紙小包も来る方は調べられません。昨日教員からあと一週間で単独になれると云はれいさみ励んで居ります。若しこちらへ来られる時は葉書でも封書にでも「勿々」と入れて下さい。でも未だ先が長いですから何

時でも結構です。スリッパ、アルバム、それにランニングシャツ、カラーポタンがあればお願ひします。煙草も。
お願ひ許りで済みませんが友人と父が来られるのでこの便をお願ひします。では又。

38 宛 先 時岡のぶ

差出人 鹿児島県出水海軍航空隊学生舎第七分隊 時岡鶴夫

日付 一九四四年七月七日〔消印による〕

形態 葉書

御祖母様永らく御無沙汰致しましたがその後お身体は如何でございますか。照子からの手紙では大分よくなられた様でとても喜んでゐます。先日は御祖父様の時計を有難うございました。何時もおちい様のお守り身につけてるのでとても気強く、大いに張切つて飛んでゐます。おばあ様の近頃の秀逸をお知らせ下さい。では梅雨の折柄呉々も御自愛下さいませ。では又お便りします。

39 宛 先 時岡正忠

差出人 鹿児島県出水海軍航空隊学生舎七分隊 時岡鶴夫

日付 一九四四年七月一二日〔消印による〕

形態 葉書

梅雨の候皆様には御壮健の由、照子の葉書にて安心致しました。アルバムお送り下さいましたさうで有難うございます。二三日中に着く事と思ひ楽しみにして居ります。飛行機は益々痛快で人後におちぬ様一生懸命やつてゐます。健

康は上々です。水泳訓練がはじまりますので水泳褲前に使つてゐたのがある筈ですが探してお送り下さい。若し無ければ晒で願ひします。前に使つてゐたのは四尺位で黒紫色の様なのでした。大急ぎで願ひします。水泳衣は駄目です。

不一

40 宛 先 時岡正忠

差出人 鹿児島県出水海軍航空隊学生舎第七分隊 時岡鶴夫

日付 一九四四年七月二八日〔消印による〕

形態 葉書

小包有難うございました。皆様お元気の由何よりでございます。父上には脚氣になられたとの事オリザニンでも服用されて早く癒られる様お祈りして居ります。私は益々元気潑潑飛行機から下界を眺めて居ります。機上は暑さを忘れる程涼しいです。祖母様は富山へ行かれる様ですがよろしくお伝へ下さい。暑中のこと故皆様の御自愛をお祈りして居ります。正治から便りあり返事出しました。

41 宛 先 時岡正忠

差出人 鹿児島県出水海軍航空隊学生舎七分隊 時岡鶴夫

日付 一九四四年七月二〇日〔19/7/20着〕との異筆書込あり

形態 葉書

小包有難うございました。とても良いシャツが入つてゐたので喜んでゐます。梅雨もいつの間にか終り絶好の飛行日和が続いて居ります。私の誕生日の二日前の日に単独を許されました。漸く段を一段上つた所で未だ未だですがそれで

も愉快で耐りません。然しここが自重のしどころと心を締直して張切つてゐます。健康には自信が出来ました。日曜には湯ノ子温泉(児)でのんびりと湯につかり、又泳いだりして英気を養つてゐます。暑さも加つて参りますから皆様の御自愛をお祈りしてゐます。

匆々

42 宛 先 時岡正忠

差出人 鹿児島県出水海軍航空隊学生舎七分隊 時岡鶴夫

日 付 一九四四年八月一七日〔消印による〕

形 態 葉書

拝啓

如何御過しでございますか。皆様お元氣の事と思ひます。小生は依然健康で大いに張切つてゐますから御安心下さい。

写真は送らせましたから近日中に届く事と思ひます。下手な写真屋でよく写つてませんが致し方ありません。

では亦。

匆々

43 宛 先 時岡のぶ

差出人 鹿児島県出水海軍航空隊学生舎七分隊 時岡鶴夫

日 付 一九四四年八月一九日〔消印による〕

形 態 葉書

残暑御見舞申上げます。暑いと云つても朝夕は涼しく過し良い日が続いて居りますね。お葉書有難うございました。とても嬉しく拝見致しました。おかげも

大分良くなられた様で喜んで居ります。せいぜい御静養下さい。私は大分飛行機にも慣れ痛快な日々を送つて居ります。

富山へ行かれるとか云はれてましたが？では暑さも未だ厳しい事ですから呉々も御自愛下さいませ。

44 宛 先 時岡正忠

差出人 熊本県水俣町湯の児松島楼内 時岡鶴夫

日 付 一九四四年九月四日〔消印による〕

形 態 封書

拝啓

皆様お愛らない事と思ひます。私も元氣の三乗位で病氣といふものが世の中に存在してゐると云ふ事を忘れる位です。

愉快に飛んでゐます。編隊飛行も特殊飛行もお手のもので単独も許され後席に戦友をのせ、六甲山より遙か高い空迄一息にあがり、そこで垂直旋回失速反転宙返り、横転宙返り反転、上昇反転、錐もみ、何でも自由自在です。小生の得意や思ふべしといふ所です。戦闘機に行くのですからこれ位お茶の子です。兎に角快(通)的そのものです。

今湯の児温泉でいゆにひとりつつ一週間の疲れをいやしてゐます。もうあと外出も二回位です。卒業すれば元山か筑波で元山に行く可能性も相当多いので会へぬかも知れませんが出来れば一度来て戴ければ……。

でもせいたくでしかも氣の毒ですから決して御無理にとは云ひません。

若し来られる様でしたら千歳旅館で会つてからここへ来られたら魚はふんだんにありますから。

蔵重さんと一緒に来られた方が分隊士になつて居られますので話をききました。
ではここ宛に来る日曜迄にお便り速達で下されば幸いです。

では又

45 宛 先 時岡正忠

差出人 鹿児島県出水空学生舎第七分隊 時岡鶴夫

日付 一九四四年九月一三日〔消印による〕

形態 葉書

拝復

暫く御無沙汰致しましたが皆様お元気の様子で喜んでゐます。私は勿論元気一杯大いに精勵して居ります故御安心下さい。小包到着しませぬがもう着く頃と楽しみにしてゐます。正治より元気な便があり写真が届いた様です。菅沼氏、前田氏には早速祝状出しました。秋風が吹きだし過しよい日が続いてゐますが皆様の御自愛を祈つて止みません。

46 宛 先 時岡正忠

差出人 鹿児島県出水海軍航空隊第七分隊 時岡鶴夫

日付 一九四四年九月二五日〔消印による〕

形態 葉書

拝啓

愈々秋らしい天候で過し良い日が続いて居りますが皆様その後御変りない事と存じます。私も元気にやつて居りますから御安心下さい。

今度二十八日二三六列車（貴地二九日）にて通過するかも知れずお含みおき下さい。

大阪が正午頃になると思ひます。ではその節に。

勿々

47 宛 先 時岡正忠

差出人 出水空第七分隊 時岡鶴夫

日付 一九四四年九月二五日〔消印による〕

形態 葉書、速達

前略

二十九日大阪（十二時）にて暇あらば少しの時間でも帰宅する予定でございますが、その節竹内忠治氏が家に寄られるとの事ですからその点もお含みおき下さい。尚私からもお話し致しますが照子につきお話があられる筈ですから父上母上も考へておいて下さる様お願い致します。先は右要件のみ。

48 宛 先 時岡正忠

差出人 青森県上北郡三沢村三沢海軍航空基地気付

筑波派遣隊予備学生舎 時岡鶴夫

日付 一九四四年一〇月八日〔消印による〕

形態 葉書

拝啓

先日は色々有難うございました。厚く御礼申し上げます。今度当地に転勤になり

ました。

本州の北の端ではありますが、氣候もよく、健康も上々で大いに張切つて居ります故御安心下さい。愈々訓練も本格的になり緊蹙一番大いに緊張してやつて行く決心です。前田の兄様姉様浅山様にもよろしくお伝へ下さい。照子の件如何になりましたでせうか。至急お返事下さい。竹内氏への礼状の都合もありますから。先は右近況お知らせ迄。

49 宛 先 時岡正忠

差出人 東京都京橋区京橋一丁目春日館内 時岡鶴夫
日 付 一九四四年一〇月三十一日

〔葉書表に「十月三十一日」との自筆書込あり〕

形 態 葉書

前略

東京第一日（三十一日）は午前中宮城参拝^{〔日比谷〕}比々谷を歩いて銀座に行き近藤が来て呉れたので一緒に歩き昼飯を食へお茶を飲んでから靖国神社参拝、続いて神宮へ参拝后原宿から省線で新宿に出て歩き廻りました。それが四時頃でバスに乗つて再び銀座に出て夕食をしたためました。具合よくトンカツがあり、久振りに豚肉の味を充分味ひました。それから近藤に別れて日劇で秋のをどりと映画をみて帰つた所直ぐに臨検があり少々驚きましたが無事。一日歩き廻つたので足が棒の様です。明日は外苑、上野、湯島、親戚と行く予定です。天候快晴で実に愉快です。では又明晩御報告します。

50 宛 先 時岡正忠

差出人 茨城県霞ヶ浦海軍航空隊筑波派遣隊学生舎 時岡鶴夫

日 付 一九四四年一月二一日〔消印による〕
形 態 葉書

拝啓

暫ク御無沙汰致シマシタガ、皆々様御変リアリマセンカ。次第二秋ラシク氣持ノ良イ天候ニナリ心身共ニ益々好調、元氣ニヤツテ居リマスカラ御安心下さい。今度当地ニヤツテ参リマシタ。懐シイ土浦ヲ再ビ見ル事が出来感慨無量デス。今后モ訓練ニ大イニ励ミマス。愈々戦局重大デ我々ノ責任更ニ重大トナリ一日モ早ク御役ニ立チタイト願ツテ居リマス。蔵重氏ハ出水ニ行カレタトノ便アリ、御元氣ノ様子デス。三好氏ニモ一度御札ニ伺フ積リデス。先ハ右近況才知ラセ迄。近日中ニ写真送りマス。

51 宛 先 時岡照子

差出人 茨城県霞ヶ浦海軍航空隊筑波派遣隊学生舎 時岡鶴夫
日 付 一九四四年二月五日〔消印による〕

形 態 葉書

暫らく御無沙汰したが元気で勤めてゐる事と思ふ。当隊に来て直ぐ父上宛に便りを出したが返事がないので心配してゐる。何か変つた事でもあつたのなら直ぐ知らせて呉れ。こちらへ来ても兄さんは元気で風邪一つ引か御奉公してゐるから安心して呉れ。正治からそちらへ便があるか、或ひは原隊へ帰つたのかも知れぬが一度宛名を知らせて呉れ。家も人手が足らず忙しい事と思ふがよろしく頼む。では様子知らせてくれ。健康には呉々も注意してくれ。

52 宛 先 時岡正忠

差出人 茨城県筑波海軍航空隊予備学生舎 時岡鶴夫

日 付 一九四四年二月二五日〔消印による〕

形 態 葉書

拝啓

寒さも次第に厳しくなつて参りましたが、父上様母上様には益々御壮健の由何よりも嬉しく存上げます。私は相不変健康そのもので、これ位の寒さは元気ですつとばして元気に訓練に励んで居ります故御安心下さい。今度表記の如く当隊に参りました。先日お願い致しました品、未発送でございましたら至急当隊宛にお願い致します。照子に宜敷お伝へ下さい。先は右近況御知らせ迄。

53 宛 先 時岡正忠

差出人 茨城県筑波海軍航空隊予備学生舎 時岡鶴夫

日 付 一九四四年二月二三日〔消印による〕

形 態 葉書

拝復

本日当隊宛の御手紙拝見致しました。皆様御元氣の由喜んで居ります。尚霞空宛の手紙も拝見致しましたので先日上陸の際三好氏宅をお訪ねしました。小父様小母様にも御元氣で二時間許りお話して帰りました。お願いしました品が送れぬ様ですが、送れる様になりましたらお送り下さい。昭和十九年も愈々押詰りましたが、皆々様良い年を迎へられる様祈つて居ります。親戚にも追々便する予定ですが、富森氏平尾氏には早速出します。先は右近況お知らせ迄。

54 宛 先 時岡正忠

差出人 茨城県筑波海軍航空隊特修学生舎 時岡鶴夫

日 付 一九四五年一月一七日〔消印による〕

形 態 葉書

拝啓

無事帰隊致しました故、御安心下さい。帰隊して毎日元氣に飛行作業をやつて居ります。勿論風邪も何処かへ飛んで了ひ元氣一杯です。母上の御病氣は如何でせうか。心配して居ります。正治ももう朝鮮へ帰つた事と思ひますが、本当に会へたのは偶然と云ひ乍ら嬉しくて耐りません。皆様に本当にお世話を掛けて了つて恐縮してゐます。尚お願いした品々お頼します。では寒さも厳しき折柄御自愛下さい。

55 宛 先 時岡正忠

差出人 茨城県筑波海軍航空隊特修学生舎 時岡鶴夫

日 付 一九四五年二月一日〔消印による〕

形 態 葉書

御葉書拝見致しました。母上がずっと御病氣だつたとの事又照子も寝てゐるとの事で驚きました。どうか早く全快される様祈つて居ります。私は益々元氣ですから御心配は要りません。竹内氏から便りがあり三月迄ちよいちよいお伺ひするかも知れぬから宜敷く伝へて呉れとの事です。関西へ移られるのかも知れません。又三重の陸軍に居られる加藤進といふ方から手紙が来て、私が休暇で帰つた事を父から知らせて来たといつてこれたのですが、私は知りませんので困つてゐます。父上が御存知だつたらどんな関係かお知らせ下さい。では又。

56 宛 先 時岡正忠

差出人 東京都渋谷区羽沢町二 佐々木様方 時岡鶴夫
日付 一九四五年三月六日

形態 封書

〔封筒裏に「三月六日」との自筆書込あり〕

父上様

御葉書拝見致しました。皆様御無事の御様子安心しました。私も勿論元気で大いに張切つてゐます。

今佐々木章雄君宅でこれを書いてゐます。佐々木氏には大分お世話になりました故、父上様からも一度礼状出して戴き度う存じます（住所渋谷区羽沢町二佐々木健太郎様）。

後藤様には早速出しておきます。

同封の写真零戦と共に写しました。夫々宛名の方へ御世話ですがお送り願ひます。

大分敵が来ますがこちらは安心です。

若し東京へ出られる様でしたら面会に来て下さい。常盤線友部下車南へ徒歩二十五分、隊内でも会へます。

鶴夫もお役に立てさうです。断然張切つてゐます。

簡単ですが右近況お知らせ迄。

父上様

匆々

57 宛 先 時岡正忠・繁子・のぶ・照子

差出人 時岡鶴夫

日付 一九四五年三月一六日

形態 封書〔封筒見当たらず〕

拝啓

暫く御無沙汰致しましたが父上様はじめ皆様御元気の事と思ひます。

鶴夫も相不変元氣一杯猛訓練に励んで居りますから御安心下さい。

今東京の佐々木少尉のお宅で静かにモツアルトのセレナーデを聞き乍ら何とも云へない氣持でこの手紙を書いてゐます。思へば一昨年十二月十日の夜出征前一人で応接間で照子の作つて呉れたココアをすゝり乍らこの曲を聞いたのです。

さて戦局は益々苛烈となつて来しました。我々搭乗員の責務は重大です。勿論私が飛行機乗りを志願したのを許して下さつたその時から鶴夫は死んだものと覚悟してゐられる事と思ひます。實際この重大戦局下生き残つて居よう等と考へてゐる戦友は一人だつて居りません。

私も愈々御役に立つ日が近付いて参りました。どうかお父様もお母様も喜んで戴きたいと思ひます。鶴夫も心から快哉を叫んでゐるのです。心から喜んで居るのです。私が立派に御役に立つた事を知られたら「出かした」と云つて下さる様御願ひして置きます。

正治も全然便がないので分りませんが、きつと立派に御奉公してゐることです。でもどうやら兄貴の方が先の様です。呵々!!

二十四才の今日迄の親の恩に報ひる様な事は一つせず親不幸の儘やりつぱなしで誠に申し訳ありません。

なんだか遺書の様な書き方ですが、隊から出すのには一寸困りますので早手廻しにかいて置きます。

それから……二十四才の今日迄私は何一つお父様やお母様にやましい事は何もありません。よく飲んで暴れたりしましたが、案外私も真面目らしいです。

照子の事ですが、嫁入さすのは一寸待つて戴きたいと思ひます。さしでがましいですが、矢張これでも時岡家の事は心配です。正治も軍人ですから。竹内氏は断られた方が良くと思ひます。蔵重氏も同じです。どちらも良い方ですが、歌の文句ですが「飛行機乗りには娘はやれぬ、今日花嫁、明日の後家」の möglichkeit 大ですから。

私は四月一杯外出なしです。面会は隊で出きますが、会はない方がサツパリしていいです。

先日写真届きましたか。返事下さい。又一枚送ります。

それから前にお頼みした品々もう結構です。唯アルバム（四冊）一度見たいのですが、なくなると困るし、前田の兄様が上京される様な事でもありましたら、佐々木さんの所へ預けて戴いて東京から送つて戴けば、なくなりもしないと思ひます。

場所は会社の方が良いと思ひますから図を置いておきます。

或ひは野瀬さんに頼んで下さい。どうしても一度みたいのです。

書留で直接送つて下さつてもかまひません。

今の私の心境は明鏡止水なんてケチなもののぢやなく「死場所を得たり男一匹暴れるか」といふ所です。

これからも出来るだけ便をします。

小林さん（やましきありません）が先日休暇の時写真をとつて下さつたのですが、これもついでの節照子にでも貰つてきてもらつて送つて下さい。

今から佐々木と痛飲します。人生春なり。

では空襲下せいで待避して健康で頑張つて下さい。

私も大いにやります。手紙をちゃんちゃん下さい。

三月十六日

終

鶴夫拝

父上様

祖母上様

母上様

照子様

誕生日は同じ日に生れた戦友と二人で飲みました。軍人半額。
満二十三才の春三月。

58 宛 先 時岡正忠、家族一同

差出人 時岡鶴夫

日 付 一九四五年四月二三日

形 態 封書〔封筒見当たらず〕

父上様

御手紙拝見致しました。御病氣だった様ですが、もう治られましたでしょうか。呉々も御養生される様お祈り致して居ります。アルバム到着、大喜びで拝見しました。

照子も婚約した様で、心からお芽出度うと云ひます。

私も元気で毎日毎日訓練に励んで居りますから御安心下さい。

さて沖縄の戦況は御存知通りで、既に先輩や同期生が幾人も特攻として行きました。

私も今になつて申し上げますが、二月二十日付を持つて特攻隊に選ばれました。晴れの出撃も数句中の事と存じます。

第九中隊が私の隊ですが既に第七迄出撃しました。愈々次の番です。驚かれませんでしたでしょうか。でも鶴夫は死ぬのは全然怖れません。断然張切つてゐます。前

の手紙にも書きましたが、お父様お母様には喜んで戴きたいと思ひます。後藤少イに頼んで切符を同封して貰ひますが、今日もお父様の手紙に面会へ行

くのはむつかしいとの事でしたから、決して無理なさらぬ様。若し来られることが出来る様でしたら使つて来て下さい。
来られなかつたら九州へ飛ぶ時神戸の上空から「さよなら」と大声で叫んで行きます。
九中隊は、隊長が岡部幸夫中伊です。若しこの名前が出たらその時は私も神様ですぞ。

丁福田少イ

丁森少イ

丁岡部中伊

丁伊東少イ

丁中村少イ

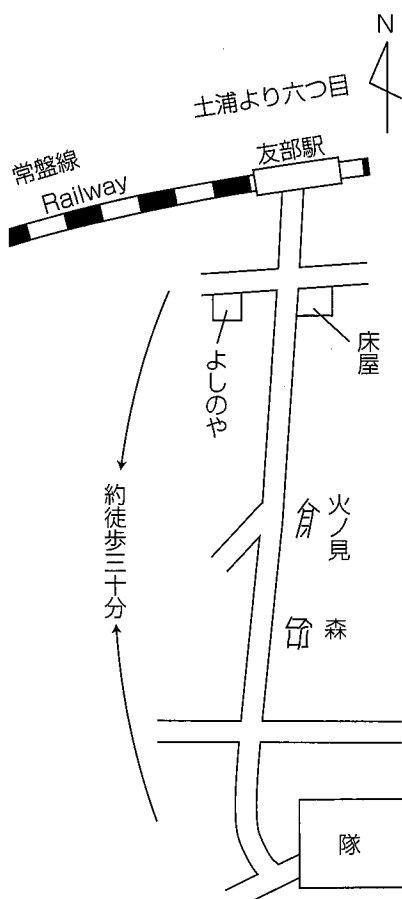
丁黒崎少イ

丁時岡少イ

丁西ノ少イ

面会に来られるのは何時でも結構です。若し来られる様でしたら一本隊宛に電報下さい。そして隊には何時来て下さつても結構です。神風舎の時岡少イと云へば直ぐ会へます。

宿屋は駅の近くに「吉野や」といふのがありますし、土浦か水戸へ行かれても



良いと思ひます。隊の方の時間は何時でも結構です。隊でも食事は出来ます。「よしのや」でしたら米は不要です。

京都の姉さん達にもよろしく伝へて下さい。

毎日急降下の練習で大重です。

必ず俺一人で千人を、そしてお父様の希望通り百機をやります。但一時にやりますから。

ではお父様の御全快と皆様の御健康を祈ります。

四月二十三日

勿々

鶴夫拜

父上様

皆々様

宛先 時岡のぶ・正忠・繁子・照子

差出人 時岡鶴夫

日付 一九四五年五月一三日

形態 封書〔封筒見当たらず〕

父上様、母上様、御一同様

愈々明日出撃です。もう準備万端整ひ防空壕で寝台に臥せり乍らこの便を書いてゐます。

一昨日の攻撃に出陣する筈でしたが、飛行機の整備が悪く残念にも取残されました。岡部中尉、森少尉、福田少尉、中村少尉は戦死されましたが、黒崎少尉、伊東少尉、西野少尉と私の四人は明日一緒に征きます。昨日も出発する予定で飛行場に行き既に飛行機に迄乗つてゐたのに急に中止となりがっかりしまし

た。然し明日は出られますので断然張切つてゐます。明鏡止水といふ所です。明日こそは必ず必ず見事に命中して見せます。目指すは正規空母です。敵機動部隊の真只中に桜の花を咲かせよう。

明日一緒に征く連中が皆夫々国へ便りを書いたり作戦を練つたりしてゐます。美しく勇ましい、そして静かな光景です。皆偉いです。しかし皆に出来る事が私にだけ出来ない筈はありませうか、やるぞ断然やる。

さて二十四年間の私の生活は実に幸福なものでした。良い家庭で良い両親と良い兄弟に包まれ自由に楽しく過して来ました。本当に満足して死ねます。お父様には筑波で会へるし、お母様は苦勞して遠い所を訪ねて下さいましたし、二晩もゆつくり話をして私の気持ちも私達の生活もよく知つて戴きましたし実に幸運に恵まれてゐます。最后迄この幸運が続いてうまく命中する様祈る許りです。佐々木にも会ひました。彼は少し遅れるので口惜しがつてゐます。

鹿屋荘へは二度許り行きました。西野と福田と三人で鶏一羽と玉子十ヶをもつて飲みに行き、風呂に入り、一晩ゆつくり語りました。とても有意義な一夜でした。明日征つたら森や福田が一升さげて待つてゐる事でせう。また皆で痛飲します。

今日迄何の孝行もせず申訳なき次第ですが、お役に立つた事をもつて許して下さい。時岡家の長男として父祖代々の家をつげず、残念といふより申訳ありませんが、国なくして家もなしですから。その代り沖繩だけは必ず勝ちます。安心して下さい。

福田の恋人の矢野文子さんが林田区東尻池町三丁目六二ノ一四石井様方宛で便が行きますから、福田の元気だった様子でも知らせてあげて下さい。

今十一時、もう寝なくては明日の出撃に差支へますから止めます。感謝しつつ征きます。死を知らんとす、また楽しからずや。

そうそう、藤田少イの奥さんが家に來られたかも知れません。藤田も一緒に行きます。佐藤は未だ富高にゐます。

では皆様、いやおばあさん、お父さん、お母さん、照子、お元気で頑張つて下さい。正治の宛名がわかつたら知らせて下さい。頑張つて張切つて行つて来ます。

五月十三日午後十一時十九分

鶴夫拜

お祖母様

お父様

お母様

照子様（良い奥さんになれよ。我儘禁物。）

姉様達

本当に良い姉さんでした。私は幸福です。感謝あるだけ。

明日朝早いので書きたい事も書けませんが、本当に感謝してゐます。

良い兄様許りで姉様達も幸せですね。どうか第二の国民達を立派に育てて下さい。そして大きくなつたら叔父ちゃんはいらぬ人と教へて下さいね。

鶴夫は最后迄幸福でした。頑張つて必ず撃沈して見せます。姉様もお元気で。日本は必ず勝ちます。

さよなら

兄様達さよなら。